

2022年6月の輸送実績の概要(内航輸送主要元請オペ58社)

■貨物計 前年同月比 91%、前々年同月比 111%、前月比 106%(16,113 万トン)

前年同月比(増加品目)

(減少品目)鉄鋼、原料、燃料、紙・パルプ、雑貨、自動車、セメント  
(変わらず)

鉄鋼 19%、原料 24%、自動車 21%、雑貨 14%、セメント 15%、燃料(石炭・コークス)7%、紙・パルプ 1%

■鉄鋼 前年同月比 84%、前々年同月比 139%、前月比 95%(299.6 万トン)

引き続き、自動車の供給制約に大きな改善が見られず荷動きは低調となっている。

■原料(石灰石・スラグ) 前年同月比 95%、前々年同月比 105%、前月比 96% (383.3 万トン)

石灰石については前年秋に製鉄所の閉鎖から減少が続いているほか、需要が低調となっている。

石灰石前年比 2%減、スラグ 22%減、非金属鉱 18%減、  
金属鉱 43%増、その他原材料 4%減

■燃料(石炭・コークス) 前年同月比 72%、前々年同月比 103%、前月比 119% (108.0 万トン)

石炭については、前月同様に石炭火力発電所のトラブル発生や定期検査、愛知の明治用水頭首工で発生した漏水事故の影響で碧南石炭火力発電所の停止が見られたため減少している。コークスも前年水準を割り込む結果となり、燃料全体としても大きく減少した。

石炭は前年比 34 減、前月比 11%減、コークスは前年比 12%減、前月比 7%減  
燃料に占める割合：石炭 68%、コークスが 32%

■紙・パルプ 前年同月比 86%、前々年同月比 111%、前月比 95%(13.3 万トン)

古紙は好調となっている。紙製品の輸送は減少が継続中である。

■雑貨 前年同月比 99%、前々年同月比 118%、前月比 102%(232.4 万トン)

てんさい糖、飲料水、食品、コンクリートブロック等の輸送が好調となっている一方で、入渠船があり航海数減少の影響も見られた。コンテナについては、円安を背景にした自動車の CKD 輸出の横持ち輸送が旺盛となっている。輸入貨物についても横持ち輸送が底堅い状況となっている。

一般雑貨 2%減、コンテナ 3%増、塩 18%減

■自動車 前年同月比 92%、前々年同月比 109%、前月比 139%(339.5 万トン)

中国の都市封鎖に伴う自動車部品の欠品の影響が見られている。

■セメント 前年同月比 96%、前々年同月比 95%、前月比 102%(235.3 万トン)

セメントの需要減により輸送は低い水準で推移している。

\*\*\*\*\*

■油送船計 前年同月比 96%、前々年同月比 105%、前月比 99% (846.4 万 kl、トン)

前年同月比 (増加品目)

(減少品目) 白油、ケミカル、高圧液化、高温液体、耐腐食

(変わらず) 黒油

輸送量の割合は白油 54%、黒油 26%、ケミカル 8%、高圧液化 6%、耐腐食 5%、高温液体 1%

■黒油 前年同月比 100%、前々年同月比 113%、前月比 99%(221.9 万 kl)

製油所の定期修理による製油所間転送需要は減少している一方で、LNG 価格上昇に伴う石油火力発電所向けの重油転送、猛暑による需要も高まった結果、前年同月並みの水準で推移している。

■白油 前年同月比 94%、前々年同月比 98%、前月比 98%(458.8 万 kl)

製油所の定期修理やトラブルの影響で製油所間転送が増加している。行動制限解除を受けて航空燃料需要の回復も見られたが、長距離輸送の増加と価格の高騰によるガソリン需要の低迷から盛り上がり欠ける結果となった。

■ケミカル 前年同月比 94%、前々年同月比 129%、前月比 108% (71.4 万トン)

前月から徐々に回復が見られているものの、引き続き、プラント工場の定期修理のほか中国の都市封鎖等に伴う輸出の減少の影響が見られている。

■高圧液化 前年同月比 93%、前々年同月比 124%、前月比 95% (46.2 万トン)

(液化石油ガス(LPG)80%、エチレン 5%、塩ビモノマー(VCM)6%、液体アンモニア 1%、アセトアルデヒド 1%、その他の高圧ガス・プロピレンオキサイド 6%)

LPG は製油所のトラブルのほか製油所間転送の減少も見られた。その他の高圧ガス(LNG) や液体アンモニアも需要が冴えなかった。

エチレンは 1%増、LPG は変わらず、塩ビモノマーは 41%減、液体アンモニアは 92%減

■高温液体 前年同月比 81%、前々年同月比 93%、前月比 114%(9.1 万トン)

(\*アスファルト 6.8 万トン(75%)、その他の高温液体 1.9 万トン(22%)、硫黄 0.3 万トン(3%))

硫黄は回復傾向が見られているが、アスファルトは原油価格の高騰から買い控えが見られたほか、その他の高温液体についても減少となったため、全体として大きく減少している。

アスファルトは前年比 12%減、その他の高温液体は 40%減、硫黄は 45%増

■耐腐食 前年同月比 99%、前々年同月比 108%、前月比 99% (39.1トン)

(硫酸(肥料、繊維、製紙)、苛性ソーダ(石けん、紙パルプなど)、その他の腐食性液体、  
その他の化学品)

(苛性ソーダは 19 万トン(48%)、硫酸は 11 万トン(29%)、その他の腐食性液体は 9 万トン(23%))

前年比で苛性ソーダは 10%増、硫酸は 11%減、その他の腐食性液体は 10%減

硫酸は内需が好調である反面、輸出の伸び悩みが見られている。苛性ソーダについては  
輸出が好調であり、輸出基地への転送需要が旺盛となっている。

★天候

気象庁 2022 年（令和 4 年）6 月の天候

上旬から中旬にかけて、北・東日本では、低気圧や気圧の谷、オホーツク海高気圧から流れ込む冷たく湿った空気の影響を受けやすく、曇りや雨の日が多かった。太平洋高気圧の張り出しが弱く、梅雨前線は沖縄付近に停滞することが多かったため、沖縄・奄美では曇りや雨の日が多かった。西日本は、梅雨前線や前線上を東進した低気圧の影響を受けた時期があり、曇りや雨の日があったが、日本海側を中心に高気圧に覆われて晴れた日もあった。東・西日本では、まとまった降水とならなかった所が多かった。下旬は、太平洋高気圧の北への張り出しが強まり、梅雨前線が北日本まで北上した。このため、北日本は梅雨前線や低気圧の影響を受けて曇りや雨の日が多く、大雨となった所があった。一方、東・西日本と沖縄・奄美では、太平洋高気圧に覆われて晴れの日が多かった。東・西日本の各地と東北南部では記録的に早く梅雨明けしたとみられる（速報値）。月降水量は、北日本日本海側と北日本太平洋側でかなり多かった一方、西日本太平洋側でかなり少なく、月間日照時間は東日本日本海側と西日本太平洋側でかなり多かった。気温は、月の前半は冷たい空気が流れ込みやすかったため、全国的に平年を下回ったが、月の後半は太平洋高気圧が強まり、全国的に暖かい空気が流れ込みやすく、高気圧に覆われて晴れた東・西日本を中心に平年を上回った。月平均気温は東・西日本でかなり高く、特に下旬は東・西日本で記録的な高温となり、地点で見ると、全国の 914 の観測地点のうち、12 地点で通年の日最高気温の高い方からの 1 位の値を記録（タイを含む）し、338 地点で 6 月の日最高気温の高い方からの 1 位の値を記録（タイを含む）した。

平均気温：東・西日本でかなり高く、沖縄・奄美で高かった。北日本では平年並だった。

降水量：北日本日本海側と北日本太平洋側でかなり多く、沖縄・奄美で多かった。一方、西日本太平洋側でかなり少なく、東・西日本日本海側と東日本太平洋側で少なかった。

日照時間：北日本太平洋側で少なかった。一方、東日本日本海側と西日本太平洋側でかなり多く、東日本太平洋側と西日本日本海側で多かった。北日本日本海側と沖縄・奄美では平年並だった。

平年気温差

北日本+0.3℃      東日本+1.0℃      西日本+1.0℃      沖縄・奄美+0.2℃

(2022年7月下旬 鉄鋼連盟「鉄鋼需給の動き」・「普通鋼鋼材需給速報」より)

粗鋼生産・普通鋼鋼材生産、普通鋼鋼材出荷・在庫動向

6月の粗鋼生産(速報)は、前年同月比8.1%減の745万トンと6ヵ月連続の減少となった。6月の普通鋼鋼材生産(速報)は、前年同月比8.3%減の503万トンと6ヵ月連続の減少となった。

5月の普通鋼鋼材国内向け出荷は、前年同月比5.5%減の302万トンと4ヵ月連続の減少となった。輸出向け出荷は前年同月比横ばいの309万トンと2ヵ月連続の増加となった。5月末の普通鋼鋼材国内在庫は、621万トンと前月末比3ヶ月ぶりの増加。なお、在庫率は前月末比30.0ポイント減少の175.6%となった。

(鉄鋼連盟の「鉄鋼需給の動き」)

5月の普通鋼鋼材用途別受注高は

前年比で建設用91.3%。このうち建築用は前年比96.1%、住宅用は110.5%、土木用86.2%。製造業用86.1%(産業機械用が104.5%、電気機械用が90.0%、家庭用業務用機器用が101.5%、船舶用が108.5%、自動車用が73.0。内需計は90.0%。輸出84.1%。

(2022/08/10 日刊産業新聞)

高炉3社、通期減益予想 資源価格高止まり 販価改善に注力

高炉3社4-6月期連結業績

(単位:億円、単価はトン当たり円、粗鋼生産は万トン)

	4-6月	前年同期	4-9月 予 想	23年3月 通期予想	22年3月 通期実績
日本製鉄	売上収益	19,191	15,031	40,000	68,088
	事業利益	3,388	2,170	4,500	9,381
	税引前利益	3,340	2,503	—	—
	当期利益	2,309	1,621	3,000	6,000
	粗鋼生産	869	1,018	1,750 程度	3,500 以上
	平均単価	140,000	97,200	147,000	—
JFEHD	売上収益	12,536	8,889	26,100	53,700
	事業利益	1,166	883	1,650	2,350
	税引前利益	1,134	854	1,550	2,200
	当期利益	838	619	1,000	1,400
	粗鋼生産	643	625	1,300	2,600
	平均単価	126,700	87,600	130,000	—
神戸製鋼所	売上高	5,428	4,632	11,700	25,100
	営業利益	80	248	190	750
	経常利益	299	239	320	800
	当期利益	210	189	250	600
	粗鋼生産	159	166	320	650
	平均単価	126,500	90,700	—	—

※粗鋼生産・平均単価は単独ベース(JFEHDはJFEスチール分)

高炉メーカー3社は2023年3月期連結業績についていずれも減益となる予想をこのほど示した。日本製鉄は事業利益8000億円(前期9381億円)、JFEホールディングスは同2350億円(4164億円)とそれぞれ5月の21年度業績発表時に未公表とした利益予想を先週に

発表。神戸製鋼所は9日の発表で経常利益800億円(932億円)と前回予想を据え置いた。原料・副資材価格の高騰や為替の円安影響、在庫評価差のマイナスが主な要因。ロシア・ウクライナ情勢の長期化や中国の経済減速など市場の不確実性が増し、資源価格が高位にとどまる中、3社は鋼材販売価格の改善を続け、収益力を高める構えだ。

### (石灰石鉱業協会「月例需給分析」)

6月(速報)は生産量が前年比3.9%減(1,101万トン。国内出荷量は1,106トン、4.5%減。

6月(速報)の用途別出荷量は、セメント用は7.3%増、骨材用は7.3%増、道路用は5.8%増、鉄鋼用は2.3%減

鉄鋼の輸送手段は船舶輸送が8割を占めている。

\*出荷量の比率は、セメント用45%、骨材用24%、鉄鋼用14%の割合となっている。

### (日本製紙連合「紙・板紙需給速報」)

2022年6月 紙・板紙需給速報

新聞用紙の国内出荷は前年同月比3.9%減、13ヶ月連続のマイナス。印刷・情報用紙の国内出荷は前年同月比0.1%増、3ヶ月ぶりのプラス。非塗工紙、情報用紙はマイナスも、塗工紙がプラス。輸出は8.2%増、2ヶ月ぶりのプラス。包装用紙の国内出荷は前年同月比2.3%増、15ヶ月連続のプラス。輸出は1.4%増、3ヶ月ぶりのプラス。段ボール原紙の国内出荷は前年同月比1.2%増、3ヶ月ぶりプラス。輸出は7.3%減、2ヶ月連続のマイナス。白板紙の国内出荷は前年同月比3.5%増、2ヶ月連続のプラス。衛生用紙の国内出荷は前年同月比0.5%増、8ヶ月連続のプラス。

### ※(2022/08/05 日本海事新聞)

#### コンテナ船が転覆の徳山下松港 一部は利用可能に 流出コンテナの回収続く

中国地方整備局は3日午後8時、徳山下松港の港内の航泊禁止が一部解除され、徳山西航路の航行が可能になったと発表した。

同港では7月31日に内航コンテナ船が転覆し、コンテナが多数流出したことなどから利用に支障が出ている。3日午後8時時点で転覆船周辺を除き、航路と泊地の調査、コンテナ除去が完了。ただ事故が発生した岸壁前面ではコンテナの回収作業が続いているほか、港内のコンテナ散乱状況の調査が行われている。

中国地方整備局と山口県は連携し、港湾機能の早期回復に取り組んでいる。中国、九州の両地方整備局はTEC—FORCE(緊急災害対策派遣隊)を派遣中。2日午後9時までにガントリークレーン1号機は復旧済み。同港周辺の海域で浮遊コンテナも確認されていない。

### JR貨物 輸送動向について(2022年6月分)

コンテナは、新型コロナウイルス感染症に伴う需要低迷の影響等を受け、積合せ貨物、家電・情報機器、紙・パルプを除く品目で前年を下回った。

エコ関連物資は、建設発生土の輸送が2021年7月に終了したため前年を下回ったほか、自動車部品は、半導体不足および海外からの部品調達困難により各社が生産調整を行った影響等で減送となった。化学工業品、化学薬品は、自動車各社生産調整に伴う原料需要低迷により低調となった。

農産品・青果物は、玉葱が北海道地区では前年の夏季干ばつによる作柄不良、九州地区では価格高騰に伴う長距離輸送の減により低調に推移した。

一方、家電・情報機器は、エアコンの需要回復や一部顧客のモダシフトの推進等により前年を上回ったほか、積合せ貨物は、2021年10月からのブロックトレイン運転開始等により増送となった。コンテナ全体では前年比96.9%となった。車扱は、石油が新型コロナウイルス感染症の影響緩和によりガソリン需要が増えたことから前年を上回った。車扱全体では前年比103.4%となった。コンテナ・車扱の合計では、前年比98.6%となった。

### (2022年6月16日 日刊自動車新聞)

#### トヨタ、部品供給難で国内工場の稼働を一部停止 6/17~7/8まで ノア/ヴォクシー・ハリアー・アクアなどに影響

トヨタ自動車は6月16日、国内工場の稼働を17日以降に一部停止すると発表した。仕入れ先での新型コロナウイルス感染に伴う出勤率低下や生産設備不良などの影響で部品供給が滞っているため。今回の稼働停止による減産影響台数は約4万台を見込む。

6月の国内生産は、中国・上海のロックダウン（都市封鎖）に伴う部品供給不足により10日まで一部工場稼働を停止していた。13日以降、全14工場28ラインで通常稼働に戻ったが、一部仕入れ先からの部品供給難により7工場11ラインの稼働を停止する。6月の世界生産台数は約80万台の計画から75万台に引き下げる。通期生産見通しの970万台は変更しない。

新型電気自動車（EV）「bZ4X」や「ノア/ヴォクシー」などを生産する元町工場第1ライン（愛知県豊田市）は17日の2直から7月1日、「ハリアー」などを生産する高岡工場第2ライン（同）は27日から7月8日、「アクア」などを生産するトヨタ自動車東日本岩手工場（岩手県金ケ崎町）は27日から7月1日まで停止する。

### (2022/06/16 日経新聞)

#### トヨタ、6月世界生産再び下げ 部品不足で75万台程度に

トヨタ自動車は16日、6月の世界生産台数をこれまでの計画である80万台程度から、75万台程度に引き下げると発表した。17日から国内7工場11ラインの稼働を最長11日間停止する。中国・上海の都市封鎖（ロックダウン）や、海外の仕入れ先工場の設備トラブルで部品の供給が遅れている。6月の生産計画を下方修正するのは今回で3回目。2023年3月期通期の生産計画である970万台は据え置く。

### (2022年7月30日 日経新聞)

#### 6月の鉱工業生産指数8.9%上げ 3カ月ぶり上昇

経済産業省が29日発表した6月の鉱工業生産指数（2015年=100、季節調整済み）速報値は95.8となり、前月比8.9%上がった。上昇は3カ月ぶり。新型コロナウイルスの感染拡大を受けた中国・上海市での都市封鎖（ロックダウン）が解除され、生産が回復した。上げ幅は現行の基準で比較できる13年2月以降で最大だった。

全15業種のうち11業種が上昇した。生産の基調判断は「弱含み」から「生産は一進一退」に引き上げた。伸び率は大きかったものの、指数ベースで見るとコロナ禍前の水準には戻っていない。

伸びが最も大きかったのは自動車工業で14.0%増だった。中国のロックダウン解除を受けて供給網の混乱の影響が和らいだ。

電気・情報通信機械工業は基地局通信装置を中心に11.0%伸びた。電子部品・デバイス工業は11.4%のプラスとなった。スマートフォンやパソコンに使うモス型半導体集積回路（メモリ）のほか、アクティブ型液晶パネルなどが回復した。

鉄鋼・非鉄金属工業は1.5%、パルプ・紙・紙加工品工業は3.3%それぞれ減った。

4～6月の季節調整済みの指数は前期比2.8%マイナスの93.0だった。5月までは中国のロックダウンの影響で、幅広い業種の生産が落ち込んでいた。

## (2022/07/29 日経新聞)

### セメント国内販売 6月0.9%増

セメント協会が28日発表した6月のセメントの国内販売量は333万5千トンと前年同月比0.9%微増した。2ヶ月連続で前年同月を上回った。九州などが牽引した。九州は前年同月比9.3%増加。福岡県で再開発向けの需要が好調だった。沖縄も2021年に工事が止まっていた反動で同23.1%増加した。一方、東京都や埼玉県などの関東一区は同2.4%減。都内の再開発向けは好調だったものの、千葉などで物流センター等の需要が一服した。

### (セメント協会「需要実績」)

6月の国内生産は前年同月比103.3%、4,541千t。3ヶ月ぶりで前年を上回った。国内販売は3,335千t、前年比100.9%と2ヶ月連続で前年を上回った。

関東二、近畿、中国、九州、沖縄は前年比プラス。\*内航輸送は国内販売の数量を参考にす  
る。

## 「石油統計速報」(資源エネルギー庁資源燃料部政策課より)

### 2.燃料油の生産

燃料油の生産は1,132万kl、前年同月比117.3%と14ヶ月連続で前年を上回った。油種別にみても、全油種（ガソリン、ナフサ、ジェット燃料油、灯油、軽油、A重油及びB・C重油）で前年同月を上回った。

### 3.燃料油の輸入、輸出

燃料油の輸入は248万kl、前年同月比82.8%と5ヶ月連続で前年を下回った。輸出は218万kl、前年同月比146.0%と6ヶ月連続で前年を上回った。

### 4.燃料油の国内販売

燃料油の国内販売は1,144万kl、前年同月比100.3%と5ヶ月ぶりに前年を上回った。油種別にみると、ジェット燃料油、A重油及びB・C重油は前年同月を上回ったが、ガソリン、ナフサ、灯油及び軽油は前年同月を下回った。

### 5.燃料油の在庫

燃料油の在庫は847万kl、前年同月比93.0%と5ヶ月連続で前年を下回った。油種別にみると、ナフサ及びジェット燃料油は前年同月を上回ったが、ガソリン、灯油、軽油、A重油及びB・C重油は前年同月を下回った。

★国内販売 2022年4月からLNGは対象外（エネ庁統計担当北原氏 3501-2773）

前年比で、ガソリンは98.5%、ナフサは98.1%、ジェット燃料油は131.9%、灯油は76.0%、軽油は99.3%、A重油は107.5%、B・C重油は126.9%、アスファルトは110.5%、LPGは96.3%

前月比で、ガソリンは99.8%、ナフサは106.0%、ジェット燃料油は101.0%、灯油は73.8%、軽油は105.5%、A重油は101.5%、B・C重油は112.8%、アスファルトは118.2%、LPGは88.4%